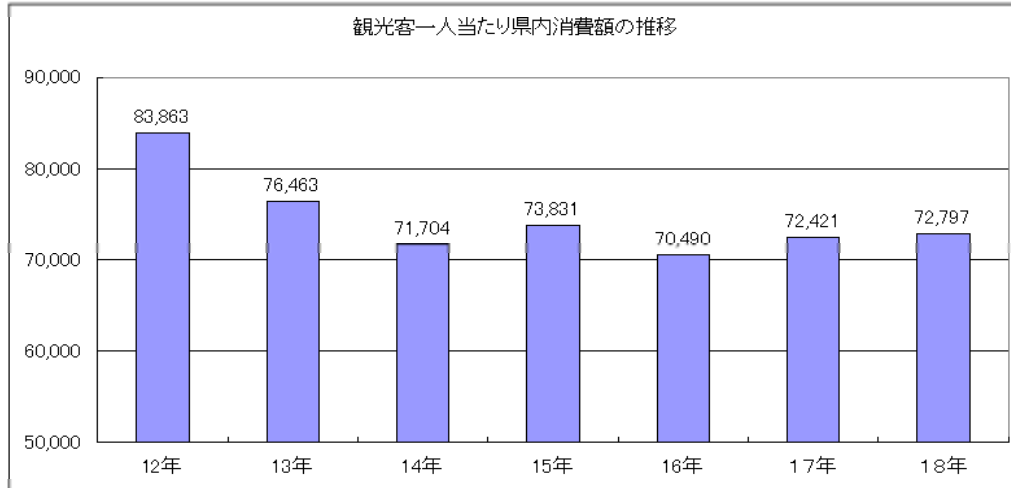


カ 本県経済における観光の位置づけ 観光客1人当たりの県内消費額の推移

本県における観光客一人当たりの県内消費額は、全国的な景気の低迷やデフレによる旅行商品低価格化などにより、回復基調にはあるが、依然として伸び悩んでいる状況にある。



資料：沖縄県観光要覧（単位：円）

a 費目別消費額

費目別内訳については、「宿泊費」が24,306円（構成比33.4%）と最も高く、以下、「土産費」17,627円（同24.2%）、「飲食費」14,512円（同19.9%）、「交通費」7,962円（同10.9%）、「娯楽費」6,250円（同8.6%）、「その他費」2,140円（同2.9%）となっている。

飲食費、その他費及び娯楽費は前年より増加しているものの、土産費、交通費及び宿泊費は前年より減少している。交通費の減少要因としては、レンタカーなどの利用単価の減少が挙げられる。

	金額		構成比		差異 (A) - (B)	前年比 (A) / (B)
	H18(A)	H17(B)	H18(A)	H17(B)		
宿泊費	24,306	24,466	33.4%	33.8%	-160	99.3%
交通費	7,962	8,099	10.9%	11.2%	-137	98.3%
土産費	17,627	18,653	24.2%	25.8%	-1,026	94.5%
飲食費	14,512	13,178	19.9%	18.2%	1,334	110.1%
娯楽費	6,250	6,088	8.6%	8.4%	162	102.7%
その他	2,140	1,936	2.9%	2.7%	204	110.5%
総額	72,797	72,421	100.0%	100.0%	376	100.5%

資料：沖縄県（単位：円）

b 季節別消費額

本県における観光客1人当たりの県内消費額を季節別に見た場合では、需要の高い夏場が観光客1人当たりの総額では最も高くなっている。費用項目別では、土産費は高齢者の割合が相対的に多い冬場に高く、娯楽・入場費はマリレジャーを目的としている夏場が高くなっている。また、宿泊費と飲食費は、平均滞在日数が長い夏場に高い。

	観光消費単価						
	宿泊費	交通費	土産・買物	飲食費	娯楽・入場	その他	
2006年1-3月期	73,475	24,325	7,585	21,144	13,081	5,252	2,088
2006年4-6月期	70,062	23,130	7,354	16,797	14,142	5,648	2,991
2006年7-9月期	79,242	26,702	8,479	15,544	17,854	8,769	1,894
2006年10-12月期	67,789	22,809	8,318	17,166	12,703	5,094	1,699
2007年1-3月期	69,083	23,644	8,025	17,232	13,754	4,786	1,644

資料：平成18年度観光統計実態調査（単位：円）

c 旅行形態別消費額

本県における観光客1人当たりの県内消費額を旅行形態別に見た場合では、近年の主流であるフリープラン型パック旅行が観光客1人当たりの総額では最も高くなっている。個人旅行は滞在日数が長いため飲食費と交通費が高く、観光付きパック旅行については初めてや来訪回数の少ない観光客が多いため、土産・買物費が特に高くなっている。

(単位：%、泊、円)

	構成比	泊数(参考)	宿泊費	県内交通費	土産・買物費	飲食費	娯楽・入場費	その他	合計
団体旅行	19.4%	2.3	24,868	6,480	17,960	8,375	4,219	1,444	63,345
観光パック	8.2%	2.4	25,104	5,551	21,319	9,205	3,220	1,092	65,491
ツアー	40.3%	2.7	25,162	7,271	17,414	16,726	7,369	2,000	75,942
個人旅行	32.1%	3.2	22,222	10,037	13,423	15,862	5,876	2,562	69,982

資料：平成18年度観光統計実態調査より

d 来訪回数別消費額

本県における観光客1人当たりの県内消費額を来訪回数別に見た場合では、来訪回数の増加に比例し滞在日数も増加する傾向にあるため、リピーター化の進展に伴い1人当たり消費額が増加する傾向にある。しかし、「4回」や「5～9回」以上の来訪回数になると逆に、消費額は減少している。

一方、土産費は、初めての観光客が一番高く、来訪回数の増加に反比例し減少する傾向にある。

また、リピーターの増加は、安定的な観光客数の増加に寄与しているが、リピーターは、県内消費額が低く、その増加が観光収入の伸び悩みにつながっていると

言われている。

	構成比	泊数(参考)	宿泊費	県内交通費	土産・買物費	飲食費	娯楽・入場費	その他	合計
全体	100.0%	2.76	24,300	8,017	16,568	14,639	6,119	2,022	71,665
初めて	31.6%	2.6	25,109	7,283	19,104	13,676	5,773	1,456	72,402
2回	19.8%	2.6	26,343	7,566	18,261	13,889	5,829	1,402	73,289
3回	11.9%	2.7	25,159	7,950	16,614	14,254	6,283	1,979	72,239
4回	5.7%	2.7	25,899	8,039	17,284	14,835	6,403	1,304	73,764
5～9回	13.6%	2.9	24,772	8,550	15,193	15,633	6,831	1,933	72,913
10～19回	7.9%	3.3	21,183	8,858	14,616	15,898	7,991	2,624	71,170
20回以上	9.5%	3.0	19,507	9,489	11,824	17,744	6,034	3,928	68,526

資料：平成18年度観光統計実態調査より作成

(単位：泊、%、円)

e 年齢別消費額

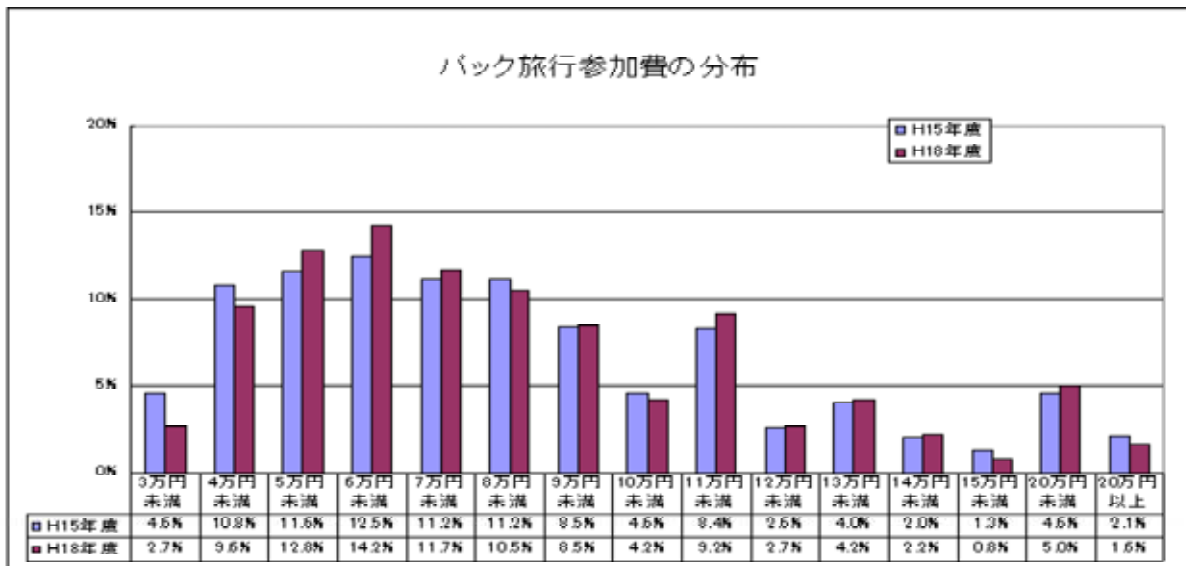
本県における観光客1人当たりの県内消費額を年齢別に見た場合では、年齢が高くなるほど、1人当たりの総額と娯楽・入場費以外の費目について増加する傾向にある。また、娯楽費については、20代から40代が高くなっている。

	構成比	泊数(参考)	宿泊費	県内交通費	土産・買物費	飲食費	娯楽・入場費	その他	合計
10～19歳	11.5%	3.1	20,655	6,208	9,699	10,151	5,284	1,002	52,999
20～29歳	17.4%	3.0	21,643	7,320	15,341	13,184	6,525	1,621	65,635
30～39歳	22.9%	2.9	23,597	8,139	16,307	15,650	7,332	2,519	73,543
40～49歳	18.9%	2.6	23,159	8,191	15,548	15,498	6,320	1,832	70,548
50～59歳	17.0%	2.4	25,727	8,792	18,463	15,453	4,962	2,142	75,538
60～69歳	9.1%	2.6	30,036	9,368	22,455	15,509	4,621	3,395	85,384
70～79歳	2.9%	2.8	35,166	8,814	20,934	12,924	4,648	2,992	85,479
80歳～	0.4%	3.1	26,524	8,408	14,391	9,373	2,760	1,242	62,699

(単位：%、泊、円)

資料：平成18年度航空乗客アンケート調査結果より作成

f 旅行参加費用



バック旅行参加費には、宿泊費や県内交通費、観光施設入場料などが含まれるほか、観光客一人あたりの県内消費額には除外される本土～沖縄間の航空運賃や旅行者の販売手数料なども含まれている。

バック旅行参加費は、団体旅行、観光付きバック旅行、フリープラン型バック旅行の合計である。

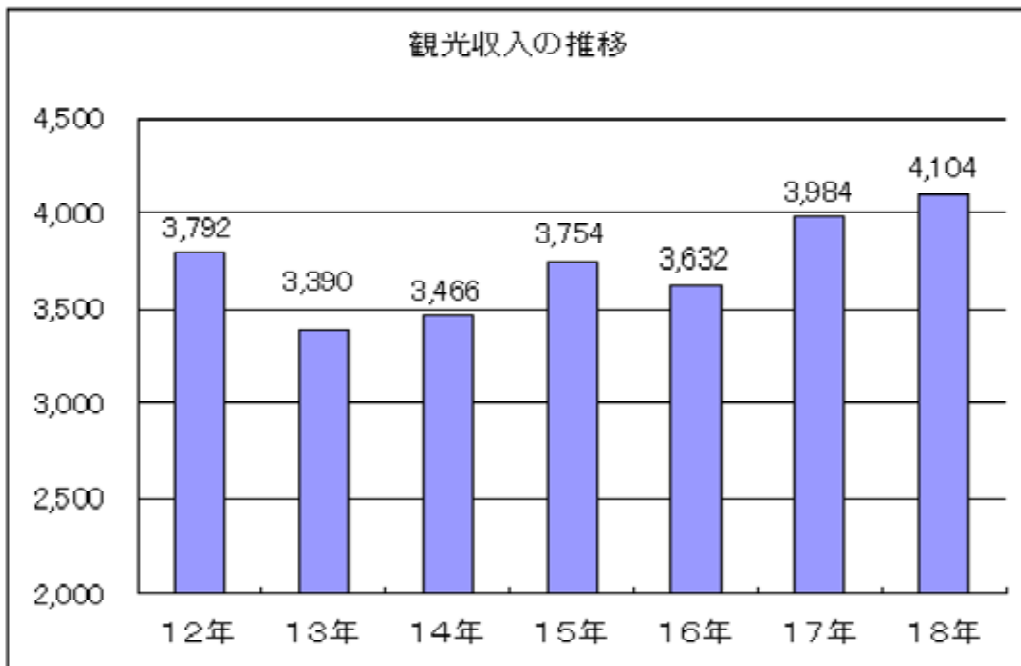
資料：航空乗客アンケート調査結果より作成

団体旅行やパッケージツアーにより本県を訪れた観光客の旅行参加費を見ると、平成15年と比べると、4万円未満がやや減少しており、5～6万円台がやや増加している。

観光収入の推移

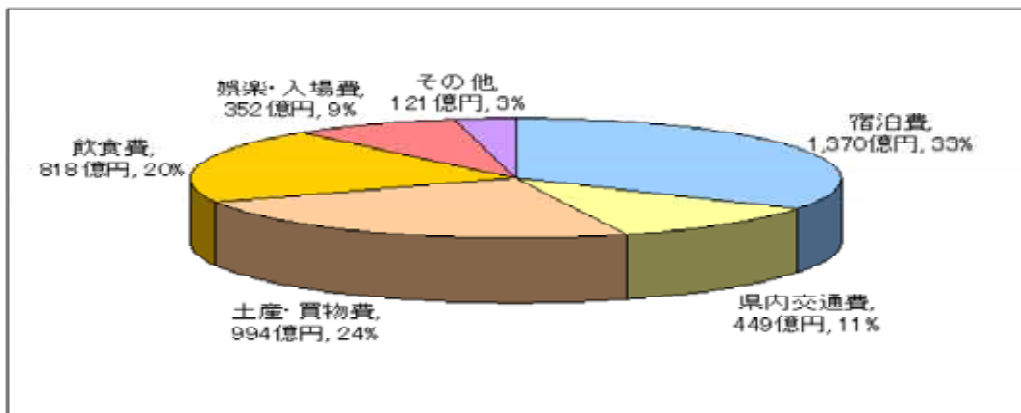
本県における観光収入は、順調な入域観光客数の伸びに支えられ、観光客一人あたり県内消費額は伸び悩んでいる状況にあるが、増加している。

平成18年には初めて、4千億円を突破した。



資料：沖縄県観光要覧（単位：億円）

平成18年観光収入



資料：平成18年度観光統計実態調査資料、沖縄県観光要覧

県外受取

平成17年度における観光収入は4,071億円となっており、県外受取に占める割合は全体の17.2%で、前年度と比較して1.4ポイント増加した。産業としては最も高い割合であり、県経済の自立にとって重要な地位を占めている。

平成17年度における県外受取の状況

項目	金額(百万円)	構成比	を除く構成比
県外から財政への移転	1,109,309	46.8%	
観光収入	407,097	17.2%	32.2%
軍関係受取	200,555	8.5%	15.9%
石油製品	83,601	3.5%	6.6%
その他	571,370	24.1%	45.3%
合計	2,371,932	100.0%	
を除いた額	1,262,623		100.0%

「県外からの財政への移転」は、「県外からの財政への経常移転」と「国庫からの資本移転」

県外受取の推移

	県外受取 (百万円)	観光収入(百万円)	
			構成比
昭和50年度	881,854	127,650	14.5%
51年度	858,673	58,923	6.9%
52年度	1,001,897	93,989	9.4%
53年度	1,130,566	119,709	10.6%
54年度	1,272,922	150,728	11.8%
55年度	1,383,163	149,725	10.8%
56年度	1,472,006	163,370	11.1%
57年度	1,428,842	164,480	11.5%
58年度	1,419,587	167,948	11.8%
59年度	1,499,085	192,907	12.9%
60年度	1,563,279	186,189	11.9%
61年度	1,511,199	192,866	12.8%
62年度	1,536,275	212,474	13.8%
63年度	1,561,098	217,311	13.9%
平成元年度	1,683,014	247,803	14.7%
2年度	1,832,519	266,792	14.6%
3年度	1,928,515	283,576	14.7%
4年度	2,076,775	280,257	13.5%
5年度	2,148,525	277,152	12.9%
6年度	2,138,127	277,556	13.0%
7年度	2,193,883	295,930	13.5%
8年度	2,205,064	307,683	14.0%
9年度	2,274,819	343,353	15.1%
10年度	2,395,917	360,363	15.0%
11年度	2,472,552	386,417	15.6%
12年度	2,474,160	377,157	15.2%
13年度	2,471,119	342,019	13.8%
14年度	2,393,292	348,287	14.6%
15年度	2,444,615	377,295	15.4%
16年度	2,341,105	369,404	15.8%
17年度	2,371,932	407,097	17.2%

資料：「県民経済計算(県民所得統計)」沖縄県企画開発部統計課
 県外から財政への移転は国庫からの経常移転、
 国庫からの資本取引の合計